

平成27年 5月15日

各 位

上場会社名 株式会社スーパー大栄
代 表 者 代表取締役社長 北山 茂樹
(コード番号 9819)
問合せ先責任者 専務取締役管理本部長 阪本 博美
(T E L 093-602-2770)

平成27年 3月期通期業績予想値と実績値との差異及び 特別損失(減損損失)の計上に関するお知らせ

平成26年11月12日に公表した平成27年 3月期通期業績予想値と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、平成27年 3月期において、特別損失を計上いたしましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 平成27年 3月期通期業績予想値と実績値との差異(平成26年 4月 1日～平成27年 3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 発 表 予 想 (A)	24,153	△5	△31	△112	△12.50
今 回 実 績 値 (B)	22,641	△552	△574	△1,149	△128.23
増 減 額 (B-A)	△1,511	△547	△543	△1,037	
増 減 率 (%)	△6.3	—	—	—	
(ご参考) 前 期 実 績 (平成26年 3月期)	23,008	9	△19	△118	△16.12

2. 差異の理由

小売業界におきましては、消費税増税前の駆け込み需要による反動減の長期化や増税後の消費者の低価格志向は根強く経営環境は厳しい状況が続いております。

当社におきましては、当期、20店舗を全面改装し、店舗の活性化を図る一方、株式会社マツモトキヨシとフランチャイズ契約を締結し、ドラッグ業界に新規参入しました。しかしながら、消費税増税による消費者の生活防衛意識は強く、当初予想を下回る見込みとなりました。

利益面につきましては、粗利益率は大幅に改善したものの、活性化に伴う改装費用や人件費などの負担が大きく響き、営業利益、経常利益とも当初予想を下回る見込みであります。

また、当期純利益につきましても、上記の他、減損損失などの特別損失の計上により、当初予想を下回る見込みであります。

上記の理由により、平成27年 3月期につきましては、売上高、営業利益、経常利益及び当期純利益は前回発表予想より大幅に減少する見通しとなりました。

3. 特別損失の計上

当社の固定資産について、現在の事業環境を踏まえ個別にその投資額の回収可能性を判断した結果、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき減損処理を実施し、平成27年3月期において、減損損失440百万円を特別損失として計上することになりました。なお、本件につきましては、本日公表いたしました「平成27年3月期 決算短信」に反映しております。

(注)上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により上記予想数値とは異なる結果となる場合があります。

以 上